



ずかん しょせき けいさい
図鑑・書籍に掲載された
フォスフォロサウルス (モササウルス類)



夜行性のモササウルス類
フォスフォロサウルス・ポンペテレガンス

2015年、アメリカ、シンシナティ大学の小西卓哉たちは、北海道むかわ町穂別に分布する白亜紀末期の地層から発見された化石を「新種のモササウルス類」として報告した。フォスフォロサウルス・ポンペレガヌス (*Phosphorosaurus ponpetelegans*) と命名されたこのモササウルス類は、日本産のモササウルス類としては、4種目となる報告である。

発見されたフォスフォロサウルス・ボンベレガンスの化石は、頭骨の約8割が変形せずに残った「良いもの」だったという。研究チームの一人であり、発見者でもある西村智弘が所属する徳島博物館のプレスリリースでは、「世界でも屈指のモササウルス類資料」として紹介されている。

の頭骨の化石を詳細に分析したところ、フォスフォオサルム・ボンタレガシスの眼の配置や頭骨の形状、「両眼視」を可能としたものだったことが明らかになった。モササウルス類のなかで「両眼視」ができたことと報告されたのははじめてである。これまで知られていたモササウルス類、たとえば、モササウルス・ミズーイ(モササウルス類) (*Mosaurus missouriensis*) などでは、左右の眼の視界が重なるとは考えられ、また、億萬年前の古魚の視界を妨げたと、両眼視は成り立たないという。そして、フォスフォオサルム・ボンタレガシスは、左右の眼の視界の重なるとは考えられ、そして鼻面が低いなどの特徴があった。

さらに、フォスフロザウルス・ボンパテルガンスは、モザザウルス類のなかの「ハリザウルス類」というグループに分類されることがわかった。北西太平洋地域からはじめてのハリザウルス類の報告である。

ハリサウルス類は胴が長く、^{ひれ}鰭が発達していない、すなわち、「遊泳を得意としない」タイプのモササウルス類だ。

つまり、フォスフォロサウルス・ボンペテレガンスも、泳ぐのが得意ではなかったということになる。一体どのような生活をしていたのか？



じつは、モササウルス類に近縁とされるヘビ類では、現生種の観察結果から、両眼視が発達した種は夜行性であることが知られている。

このことから、小西たちは、フォスフォロサウルス・ボンベレガンスが夜行性であった可能性を指摘している。遊泳を得意とするモササウルス類たちが休んでいる夜間に、両眼視を駆使して獲物を狩っていたのではないかと、というわけだ。



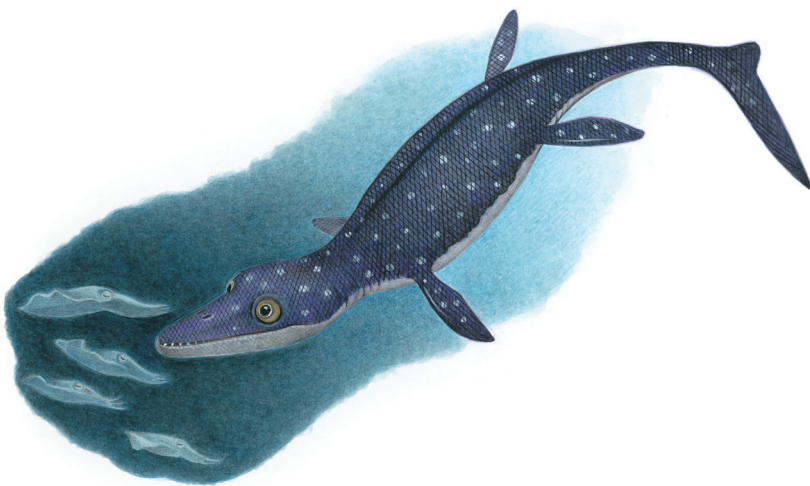
フォスフォロサウルス・ボンペテレガンスの頭骨の復元模型。左は復元図。
(Photo:むかわ町郷土博物館)

しんかのお話 365 日
(技術評論社)p. 181 より

生命史図譜
(技術評論社) p. 52 より

2015 年 12 月に発表したモササウルス類のフォスフォロサウルスが図鑑などで取り上げられるようになってきました。

これは、モササウルス類の一部
が^{やこうせい}夜行性であったことを世界で初
めて^{しき}示唆した重要な種類で、図鑑
などで紹介^{しょうかい}されることによって、
広く知られるようになってきまし
た。この化石は、穂別博物館^{じょうぶく}に常
設^{せつ}展^{てん}示^じされています。



学研の図鑑 LIVE 古生物
(学研プラス)p. 150 より
イラスト 大片忠明

むかわ町天然記念物紹介

アノマロケリス・アングラータ

(むかわ町文化財第7号)



アノマロケリス・アングラータの背甲

白亜紀に絶滅したナンシュンケリス科の新属新種として2001年に発表された*陸生カメです。1977年に穂別在住の阿部利春氏によって発見・採集されました。日本産出のナンシュンケリス科としては最も完全に背甲（背側の甲羅）が保存されている標本で、日本産のものとしては唯一、新種とされています。

この標本は、むかわ町穂別の白亜紀中ごろにあたるセノマニアン期（約1億～9,300万年前）の海の地層から発見されました。この発見は、恐竜時代のむかわ町穂別の海の地層から、恐竜などを含む陸の生きものも発見されること示した大発見といえます。

* 発表論文：Hirayama, R., Sakurai, K., Chitoku, T., Kawakami, G. and Kito, N., 2001, *Anomalochelys angulata*, an unusual land turtle of Family Nanhsiungchelyidae (Superfamily Trionychoidea; Order Testudines) from the Upper Cretaceous of Hokkaido, north Japan. *Russian journal of Herpetology*, vol. 8, p.127—138.

学芸員 西村智弘

むかわ町穂別博物館

【公共交通機関による来館案内】（バス停「穂別中央」～博物館は徒歩約10分）

往路（札幌・苫小牧方面▶博物館）

- ・新千歳空港 10:40 ①▶穂別中央 12:03
- ・苫小牧駅 7:58 ②▶鶴川駅 8:27 -（乗換）- 鶴川駅前 9:35 ③▶穂別中央 10:45

帰路（博物館▶札幌・苫小牧方面）

- ・穂別中央 16:17 ①▶新千歳空港 17:40
- ・穂別中央 15:40 ③▶鶴川駅前 16:45 -（乗換）- 鶴川駅 17:55 ②▶苫小牧駅 18:24

①道南バス 新千歳空港直行便（1,470円） 前日の16時までに予約（0145-45-2284）

② JR 日高本線（640円）

③道南バス 穂別鶴川線（200円） ※各料金は大人1人分

2017年12月

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

2018年1月

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

休館日 町民無料観覧日